

C-ENGINEは、産と学の交流をととして イノベーションを創出できる人材育成をめざす 大学・企業のコンソーシアムです

多様な場で活躍できる

研究インターンシップをととして、学生が一人前の研究者として
身につけるべきトランスファラブルスキルの習得を支援します

人材育成

研究インターンシップを契機とする

産学連携

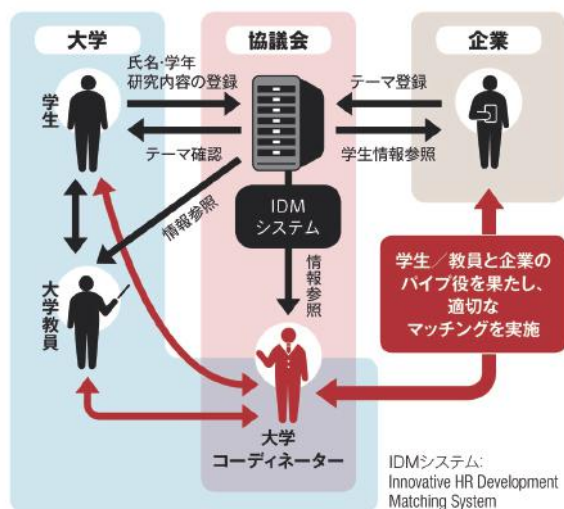
研究インターンシップをととして産学の対話と知の交流を深め、
我が国の研究力に厚みをもたせ、イノベーション創出に貢献します

C-ENGINE のインターンシップの特徴

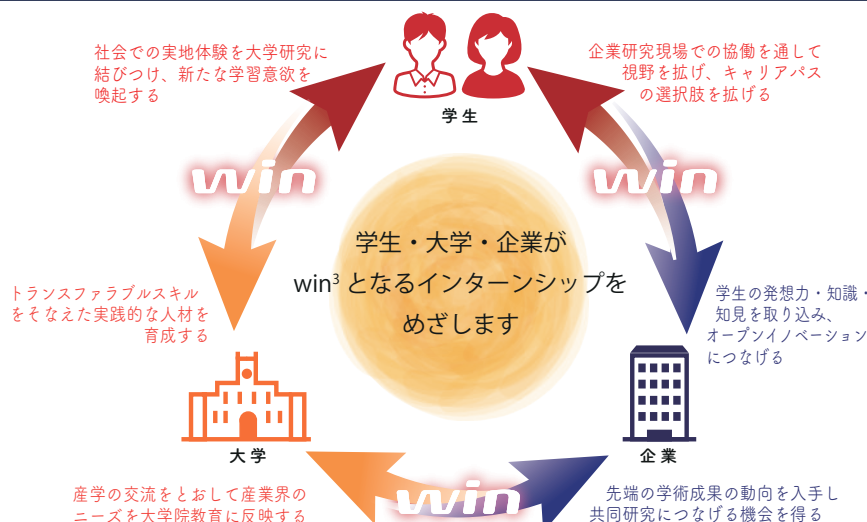
特徴1 組織と組織のインターンシップ
コンソーシアムとして事例を共有し、
研究インターンシップの質向上につなげます！

特徴2 中長期の研究インターンシップ
基本技術の指導や習得だけでなく、より実践的な研究をととして
協働する場を提供します！

特徴3 オンラインとオフラインでのマッチング
IDMシステムと、大学コーディネーターのハンズオン支援により、
効率的でいいなマッチングのしくみを構築しています！



C-ENGINE がめざすインターンシップ



▶ 学生と企業の相互理解を深める場

顔をあわせて情報を共有する
「マッチング交流会」

インターンシップに関心を持つ
学生と企業の交流の場。企業の
概要や具体的な研究
内容、本音などを聞
くことができます。

2019.5.22
筑波大学 交流会



学生が企業の研究現場を訪問する
「企業見学会」

企業を訪問し、現場の雰囲気を感じること
で、より企業理解を深める
場となります。

2019.5.9
大阪大学 交流会

2018.11.12
島津製作所 見学会



協議会会員 (2020年7月現在 16大学、36企業)

[大学]



[企業] (50音順)



協議会趣旨にご賛同いただける企業のご参画をお待ちしております



産学協働での世界の科学・技術を牽引する人材育成に向けて

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会
代表理事 北野正雄
(京都大学理事・副学長)



産学協働イノベーション人材育成コンソーシアム事業の目的は、研究インターンシップを中心とした実践的な産学連携活動を通して、アカデミアにおいては世界の科学・技術を牽引する、あるいは産業界においてはグローバル市場における日本企業の産業競争力を主導する、イノベーションマインドを有する人材を育成することです。

本事業では、まずは理系大学院生およびポスドクを対象に、大学と企業による組織的な多対多のマッチングシステムを整備しました。Web システムの構築・運用に加え、各大学コーディネーターによるハンズオンのマッチング支援により教育的効果に配慮した良質な研究インターンシップを実施しております。

本事業をとおり、学生は個々の能力を企業の現場で試すことで新たな気づきを得られます。企業はイノベーション創出に向けた萌芽的研究領域を探索できます。このような Win-Win の関係構築によって、大学と企業の相互理解が更に深まることを期待しています。

経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室

産学協働イノベーション人材育成協議会は、短期のインターンシップとは異なり、学生が企業において実際の研究業務に携わることで、一人前の研究者としてのスキルを習得する中長期の研究インターンシップを推進してまいりました。今年度で協議会が自立して3年目を迎えますが、この取組が新規事業に発展する事例もあり、産業界からの期待もますます高まっているところです。

経済産業省としても、産学協働イノベーション人材育成協議会の実施する研究インターンシップの有効性について、産業界および教育機関へのさらなる普及に努めてまいり所存であり、関係の方がたの積極的な参画とご理解をいただきたく、よろしくお願いいたします。

文部科学省 高等教育局 専門教育課

産学協働イノベーション人材育成協議会が進める研究インターンシップは、大学と企業の積極的な連携の下、大学院生がその専門性を活かし、企業のリアルな研究現場に長期入り込み、一人前の研究者として共同研究等を通じて企業が抱える課題の解決をめざすもので、政府や文部科学省の政策にも盛り込まれています。

こうした取組みは、高い教育的効果を発揮しているのみならず、企業からも大きな期待が寄せられており、わが国のインターンシップの理想のかたちの一つとして位置づけられ得ることは間違いありません。

引き続き、参加する学生数や企業数の増加をめざすとともに、人文・社会科学も含めた分野の拡大等、より発展的な取組を推進し、産学協働による人材育成を通じたわが国のイノベーションの創出にますます貢献していただくことを期待しています。

インターンシップの質を高める取り組み

関係者が定期的に集まり、課題を共有し解決策を検討・実行することで <C-ENGINE> のインターンシップは、常に刷新と最適化がおこなわれています

大学コーディネーター会議

大学コーディネーターが定期的に集まり、問題共有や具体的な解決策の検討、実行を通して、ノウハウの共有を図ることを目的に開催しています。学生指導や指導教官とのやりとりのポイント、企業担当者との折衝方法、インターンシップ中の学生サポートなどコーディネーターにまつわる内容を議論しています。コーディネーターの活動を面に変える重要な会議です。



<2019.2.22 大阪大学>

大学／企業合同会議

大学・企業の担当者が一堂に会し、現状の課題を共有し、解決策を大学と企業が協力して考えることで、マッチングの促進と質の保証という2つの目標の実現を試みています。過去の実例分析や企業テーマの精査と理解、送り出し／受け入れ指針の策定など、産と学が顔を合わせベクトルを合わせる会議です。



<2019.5.15 東京大学>

大学理事意見交換会

会員大学理事にお集まりをいただき、大学理事意見交換会を開催しています。2018年度の大学理事意見交換会では、会員大学から担当理事9名の方を含む17名が参加をし、教育プログラムとしてのインターンシップの意義、各大学の抱える課題とその対策、今後の展望などについて意見交換をおこないました。大学が組織として参画している点に、<C-ENGINE>の強みがあります。



<2018.10.18 東京工業大学>

産学協働イノベーション人材育成シンポジウム2018
オープンイノベーションに向けた《新しいインターンシップ》のかたち
ーイノベーションを見る眼・生み出す力ー
2018年10月18日(木) 14:30~18:00 東京工業大学 蔵前会館 蔵前ホール
主催：一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会 後援：経済産業省、文部科学省

基調講演 イノベーションを見る眼・生み出す力

一橋大学大学院経営管理研究科・イノベーション研究センター教授 輕部 大
イノベーション創出について大変示唆に富んだお話をいただきました。経営者が外部環境への関与と越境を志向していかない限り、現場ひいては会社／社会の変革は実現しない。イノベーションを生み出すには協働が不可欠であること、そうした協働を実現するうえで、日本企業が抱えている課題について解説いただきました。



学生・コーディネーター・企業報告



学生、コーディネーター、企業の視点より研究インターンシップをより成果のあるものにしていくための工夫や課題についてお話しをいただきました。学生からは、研究インターンシップに参加する一歩を踏み出す重要性や大学での研究との関連性について、コーディネーターからは、現場でのマッチング課題について、企業からは研究インターンシップを受け入れる際の留意事項についてお話しをいただきました。

大学報告 イノベーションにおける数学会の役割

九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 福本康秀

数学会が産業界に積極的にアクセスしている最近の状況について具体的な事例を交えてお話しをいただきました。社会科学と数理科学という異分野の知識を融合させることによって新たな社会システムをデザインしていくプロセスについて解説いただき、今後の産学連携のあり方に対する知見を述べていただきました。

運営体制 (2020年7月現在)

協議会運営体制図 (2020年7月現在)
(敬称略)

一般社団法人 産学協働イノベーション 人材育成協議会

組織概要

名称……一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会
設立……2014年1月20日
住所……京都市左京区吉田牛ノ宮町4 日本イタリア京都館305
活動……イノベーションを創出する力を有する高度理系人材の輩出をめざす多対多の大学と企業の連携活動

理事

代表理事 北野正雄 (京都大学 理事・副学長)
理事 (大学) 光石 衛 (東京大学 大学執行役・副学長)
理事 (大学) 水本 哲弥 (東京工業大学 理事・副学長)
理事 (大学) 安浦 寛人 (九州大学 理事・副学長)
理事 (企業) 小林 正博 (ダイキン工業 専任役員)
理事 (企業) 吉川 正人 (東レ 理事)
理事 (企業) 田宮 直彦 (日立金属 執行役常務)
理事 (企業) 古藤 悟 (三菱電機 開発本部 技術統括)

監事

監事 (大学) 田中 敏宏
(大阪大学 理事・副学長)
監事 (企業) 横田 真
(日本ゼオン 執行役員)

事務局

事業責任者
藤森 義弘
●事業・資金管理
●協議会運営サポート

オブザーバー アドバイザー

経産省、産総研
文科省、各種経済団体
有識者など
(必要に応じて招聘)